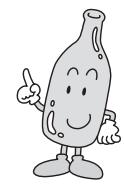




出す前にもう一度確認を！ 空きビンの排出ルール



3 空きビン以外のものを 混ぜない

色別に出されたガラスビンは、色別に回収されて、新しいガラスビンに生まれ変わります。コンテナに間違えた色を入れると、元の色のガラスビンに生まれ変わることができます。ガラスビンを出すときは、コンテナに入れてください。

が発生して、非常に不衛生でゆすいでください。ビンをゆすぐ時は、環境に配慮して食器を洗う時のすすぎ水などを利用してください。※はがしにくいラベルは、無理にはがさないでください。

金属、プラスチック、耐熱ガラス、陶磁器などの異物が混じっていると新しいガラスビンに生まれ変わる際に、溶け残りができるでビンが割れてしまします。空きビン以外のものは絶対に混ぜないでください。

◆リターナブルビンの回収！
ビールビンや一升ビン等のリターナブルビンは販売店などで回収しているところもあります。一度お問い合わせください。

☆旧の市指定ごみ袋（シール）は、3月31日まで使えます！

◆環境課
☎ 587-6003
FAX 587-3834

◆排出時の注意点

1 キャップを取る
アルミキャップや王冠などが付いたまま出されると、ガラスビンの強度が低下するため、必ずキャップ等を取ってください。外れにくい中栓は無理に外さず、そのまま出してください。栓を外すときは、危険のないよう十分注意してください。



《食器・調理器具（電子レンジに使える物等）・哺乳瓶等の熱に強いガラス》



※上記のものは、ガラスビンの原材料にならないため燃えないごみで出してください。

☆農薬等のビン

農薬等が入ったビンについては、市で収集、処理ができないため販売店にご相談ください。

◆危険物の排出方法

☆ガスライター…必ず使い切るか、危険のないよう十分注意をして中身を出してから燃えないごみとして出してください。

☆カセットガス缶・スプレー缶…使い切った上で、風通しのよい場所で穴をあけ、空き缶・金属類の収集日に赤色の専用コンテナに出してください。

※各ごみ集積所に穴あけ器を設置しています。

※カセットコンロに付いている電池は、必ず外し、カセットコンロは燃えないごみとして、電池は乾電池回収箱に出してください。



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

2月25日(土) 午前10時～正午
回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587-6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586-1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

⑧

歴史民俗博物館

☎ 587-4410、Fax 587-4413

【2月の休館日】月曜・火曜日

◆テーマ展「遺跡で見る野洲の歴史(5)」／

2月4日(土)～3月4日(日) ※発掘調査報告会…

2月11日(祝)午後2時～4時

◆写真展「平家物語と祇王伝説」／4月22

日(日)まで

◆野洲のやきもの「小富士焼」～池田コレク

ション展～／2月4日(土)～3月4日(日)

◆真冬の宝探し大会／2月11日(祝)午前10時

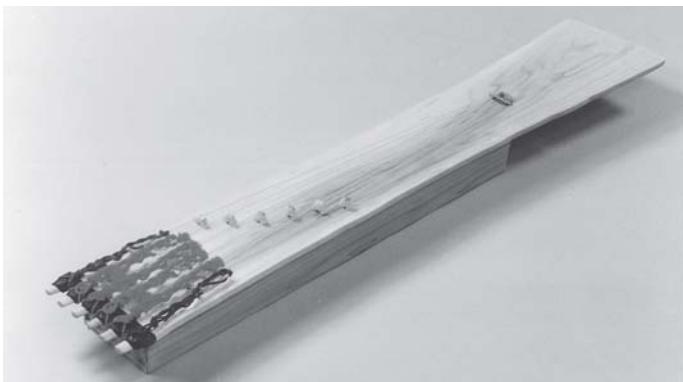
～11時30分 ※ドウタクくんも参加予定

◆第23回赤米講演会と試食会「弥生水田の始

まりと展開」／2月18日(土)午後2時～4時

講師…江浦洋さん(大阪府文化財センター)

市三宅東遺跡出土の琴(復元)



古代の琴板に使われる樹種は、スギやヒノキの針葉樹です。現代の琴は桐材で作られていて、糸を張る天板から側面まで一本で形成され、小口と底板には別材の板をはめ込んで作られます。

『日本書紀』『古事記』などには、琴に関する記述が散見されます。琴が単なる楽器としての役目だけでなく、古代においては祭祀の聖なる楽器として、神事にまたは葬送に使われたことがわかります。

中期の溝跡や後期の方形周溝墓群と弥生時代後期から古墳

岸の氾濫原に営まれた縄文時代後期から室町時代に至る遺跡です。昭和58年度から会社社屋の建設に先立ち発掘調査が、これまでに数回にわたって実施されてきました。昭和58年度～63年度の発掘調査では、弥生時代中期の堅穴住居時代前期から中期の堅穴住居の集落と墓域を確認することができました。特に、弥生時

代中期に碧玉製の管玉などの玉作りを行った堅穴住居の工房(直径6.5m)が発見されています。古墳時代中後期においては、南北方向の大溝(幅6.5m、深さ1m)から多量の土器や木製品とともに木製の琴が出土しました。出土した古墳時代中期の琴は、天板の琴板に半分のみが割れた状態で出土しました。全長161.3cm、残存幅11.9cmで糸を掛ける

突起が3か所残っています。突起は復元すると6か所で、琴板の下にあてがう断面凹形の共鳴槽があつたと考えられます。市三宅東遺跡から出土した琴は細長い大型品ですが、最も大きな琴は、島根県松江市出土の琴(古墳時代中期)で全長192cmをはかります。

遺跡から出土する琴は、弥生時代前期から平安時代まで近畿、東海を中心におよそ80例あまりが知られています。古代の琴は、天板の琴板のみで共鳴槽のない単純な「板作り」と側板、琴板などの部材がすべて別材で分かれています。これらの部材を箱状に組み立てる「箱作り」や現代の琴と同様な「甲作り」があります。



滑石製品

市三宅東遺跡の発掘調査から